

# 矢臼別監視小屋にて

二部 黎

2020年1月22日より2月8日まで 日米共同訓練〔NORTHERN VIPER〕を北海道大演習場（恵庭、千歳）と矢臼別演習場で実施する。

共同訓練には米海兵隊 2500 名、自衛隊 1600 名、計 4100 名が参加する。

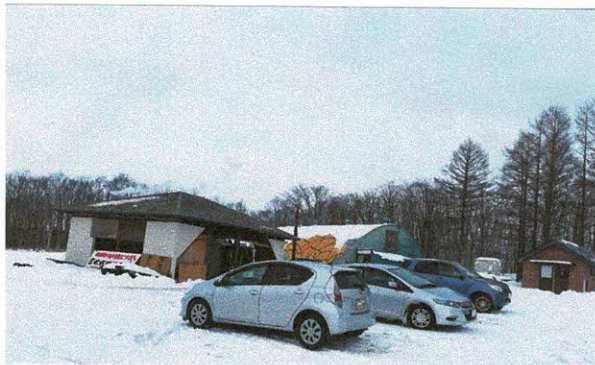
矢臼別で小型ヘリコプター6機、中型ヘリコプター6機に加えてオスプレイ2機が訓練に参加し、対戦車誘導弾、81mm迫撃砲、120mm迫撃砲、70mmロケット砲、小火器（機関銃）、155mm榴弾砲、21mmロケット弾、多連装ロケット、84mm無反動砲、爆破訓練等々の訓練を行う旨の通知が別海町役場総合政策課から届いた。

NORTHERN は NORTH の形容詞形（北の～）、VIPER は（毒ヘビマムシ）、直訳すると（北の毒マムシ作戦）となるのでしょうか。なんとも物騒な作戦名、部隊名である。

矢臼別住人の私共も、この作戦部隊を監視する一員として抗議の監視活動に連日参加した。



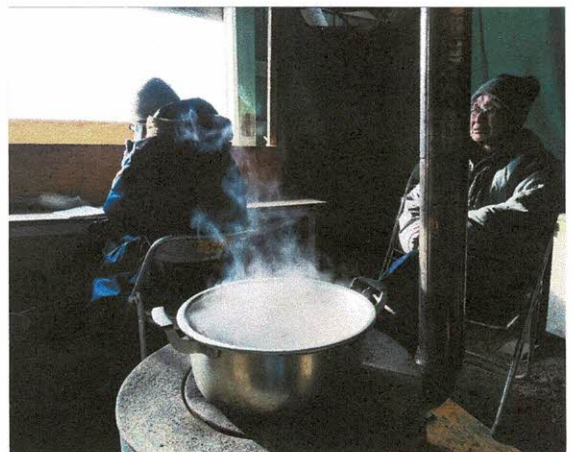
2020年1月28日（火） 監視2日目



2月1日 近隣の街々から



2020年2月1日（日）  
薪ストーブで暖をとり  
ながら



2月4日 記録担当と暖房担当

結果的にオスプレイは千歳、恵庭止まりで矢臼別には来なかった。

(吹雪、寒さ、悪天候で来れなかった！)

2月4日、千歳にオスプレイ到着の情報が道新さんより届いて、監視員全員に緊張が走ったが、自衛隊の演習場内の除雪の音のみ！

2月7日早朝、オスプレイ帰還の道新ニュースを読み、ほっと胸をなで下ろす。

監視行動を通していくつものことがわかった。そのひとつが、日米地位協定の実態。自衛隊のヘリコプターが民有地上空を低空飛行することは無い。なのに、2月2日12時40分、米軍ヘリコプター、AH1（コブラ）が監視小屋真上を威嚇するがごとく通過！

2月2日 13時 米軍ヘリコプター 盛んに低空飛行をくり返す。

13時28分 西から東へ低空飛行を続け複数で急旋回の訓練！

その後も連日低空飛行を続ける。

海兵隊移転訓練でさえ、これほどひどくはなかった。

「北の毒マムシ作戦」は相手側をマムシに見立て、榴弾砲でまず遠くから痛めつけ、(共同訓練の期間中、955発の155mm榴弾砲が撃たれた)近くから迫撃砲で追い討ちをかけ、空からヘリコプターでロケット弾をうちこみ、オスプレイから部隊を地上に送り、機関銃で撃ち殺す。この作戦に自衛隊を取り込み、日米一体となって、敵をミナゴロシにし、毒を完全に抜き取る作戦！

あるいは、海兵隊と自衛隊を毒マムシに見立て、共同で敵方にくり返しくり返し、毒を注入して参らせる作戦！

どちらにしてもすさまじい訓練だ！

榴弾砲の着弾地付近(発射地点から10~15キロメートル)での機銃掃射訓練は、2月3日、集中的におこなわれ、9時15分から10時25分まで連続70分を超えて撃ち続けられた。その上空を米軍ヘリコプター、AH1（コブラ）が飛び回る。

矢臼別の美しい雪の原野は、完全に戦場にされてしまった。

1945年7月14日、港町小樽は アメリカのグラマン戦闘機の空爆を受けた。

満2歳1ヶ月の私には強烈過ぎる戦争であった。

防空壕の壁土が、射撃音の振動でサラサラ崩れ落ち、壕の入口のすき間から光がひとすじさし込んでそれを照らしていたのだ。

戦争の記憶を持つ最後の世代として、「平和な世界を、子孫に残したい」この思いでいっぱいになりながら、監視活動を続けました。